

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成18年4月13日(2006.4.13)

【公開番号】特開2000-69495(P2000-69495A)

【公開日】平成12年3月3日(2000.3.3)

【出願番号】特願平11-47041

【国際特許分類】

H 0 4 N 9/66 (2006.01)

H 0 4 N 11/18 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 9/66 C

H 0 4 N 11/18

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月23日(2006.2.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 初期デジタルSECAMカラー信号の復調方法であって、

前記SECAMカラー信号は、異なる周波数を有する2つの標準カラー搬送波の一方ずつによりそれぞれ変調された2つのカラー成分を有し、

前記SECAMカラー信号が单一のミキシング周波数を用いた单一の直角ミキサで処理されることを特徴とする復調方法。

【請求項2】 請求項1に記載の復調方法であって、

xは前記ミキシング周波数の余弦関数をかけられた直角ミキサ出力信号であり、yは前記ミキシング周波数の正弦関数をかけられた直角ミキサ出力信号として、

前記SECAMカラー信号をさらに変調し、後で微分されるべきSECAM位相信号を得るため、2つの直角ミキサ出力信号xとyの関数 $\arctan(y/x)$ を、特に座標回転デジタルプロセッサにおいて計算することを特徴とする復調方法。

【請求項3】 請求項2に記載の復調方法であって、

前記ミキシング周波数は前記2つの標準SECAMカラー搬送波周波数を含んでその間の周波数範囲にあり、

標準以外のマッチするカラー搬送波ミキシング周波数によって誘起されるバイアス効果は前記 $\arctan(y/x)$ を計算した後の対応するクランピング動作により補正されることを特徴とする復調方法。

【請求項4】 請求項3に記載の復調方法であって、

前記バイアス効果をSECAMカラー復調に必要なライン識別に使用することを特徴とする復調方法。

【請求項5】 直角ミキサを用いたデジタル復調方法であって、

前記デジタル復調はPAL、NTSC、またはSECAMカラー信号復調であり、

前記直角ミキサはPALまたはNTSCカラー成分を出力し、SECAMの場合にはx信号とy信号とを出力し、

SECAMの場合、

前記直角ミキサのミキシング周波数を標準SECAMカラー搬送波周波数の中の1つの周波数にラインごとに交互に切り換えるステップと、

x信号とy信号から関数 $\arctan(y/x)$ を、特に座標回転デジタルプロセッサ

において計算するステップと、

$\arctan(y/x)$ 信号を微分するステップと、を実行し、

S E C A M カラー成分は U ラインと V ラインの識別により取得されることを特徴とするデジタル復号方法。

【請求項 6】 請求項 2 ないし 5 いずれか一項に記載の方法であって、

自動カラー制御のための制御信号として使用する振幅値 ($x^2 + y^2$) を計算することを特徴とする方法。

【請求項 7】 請求項 1 ないし 6 いずれか一項に記載の方法であって、

デジタル P A L または N T S C カラー信号の復調に、対応して選択したミキシング周波数とともに前記直角ミキサを使用することを特徴とする方法。

【請求項 8】 直角ミキサを用いたデジタル復調装置であって、

前記装置は P A L 、 N T S C 、または S E C A M のカラー信号復調に好適であり、

前記直角ミキサは P A L または N T S C カラー成分を出力し、 S E C A M の場合には x 信号と y 信号とを出力し、 S E C A M の場合、単一のミキシング周波数を標準以外のマッチするカラー搬送波ミキシング周波数によって誘起されるバイアス効果で使用し、

S E C A M の場合、関数 $\arctan(y/x)$ を計算する前記直角ミキサ、特に座標回転デジタルプロセッサに続く段階と、

$\arctan(y/x)$ 信号に微分とクランピングを実行する後続段階と、前記バイアス効果は対応するクランピング動作により補正され、 S E C A M カラー成分は U ラインと V ラインの識別により取得されることを特徴とするデジタル復調装置。

【請求項 9】 直角ミキサを用いたデジタル復調装置であって、

前記装置は P A L 、 N T S C 、または S E C A M のカラー信号復調に好適であり、

前記直角ミキサは P A L または N T S C カラー成分を出力し、 S E C A M の場合には x 信号と y 信号とを出力し、 S E C A M の場合、ミキシング周波数を標準 S E C A M カラーバンド周波数の中の 1 つの周波数にラインごとに交互に切り換え、

S E C A M の場合、関数 $\arctan(y/x)$ を計算する前記直角ミキサ、特に座標回転デジタルプロセッサに続く段階と、

$\arctan(y/x)$ 信号に微分を実行する後続段階と、

S E C A M カラー成分は U ラインと V ラインの識別により取得されることを特徴とするデジタル復調装置。

【請求項 10】 請求項 8 または 9 に記載の装置であって、

前記座標回転デジタルプロセッサにおいて、自動カラー制御のための制御信号として使用する振幅値 ($x^2 + y^2$) も計算することを特徴とする装置。